

○●横浜市医療安全メールマガジン<第225号>●○  
～医療現場で行われる共同意思決定（SDM）の実際と今後のあり方 その1～

医療安全メルマガは、患者と医療機関のコミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！

医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

横浜市医療安全メールマガジンでは第219号から第221号にかけて、荒神裕之先生（山梨大学医学部附属病院医療の質・安全管理部特任教授 医師GRM）が執筆された医学会新聞の記事（2024.07.09 医学界新聞（通常号）：第3563号）を基に、共同意思決定（SDM：シェアード・ディシジョン・メイキング）の実践に焦点を当てました。

本号から全4号にわたり、腎臓専門医でもある医療安全課の行政医師が、10年以上にわたる腎臓内科・透析診療の臨床経験をもとに、症例を用いて「医療現場で行われる共同意思決定（SDM）の実際と今後のあり方」についてお伝えします。

■医療現場で行われる共同意思決定（SDM）とは

IC（インフォームド・コンセント）が「説明と同意」を軸とするプロセスであるのに対し、共同意思決定（以下、「SDM」という。）は患者と医療者が対等なパートナーとして治療方針を「一緒に考える」ことに重きを置きます。

腎代替療法の選択は、まさにSDMの重要性が問われる場面の一つです。血液透析、腹膜透析、腎移植（献腎・生体腎）、保存的腎臓療法といった多様な選択肢があるなかで、どれが「医学的に最善」か一律に判断することはできません。透析施設までの通院手段、針を刺される苦痛、生活リズム、家族の支援体制、さらには「延命された時間をどう生きたいか」といった人生観まで、検討すべき要素は実に多岐にわたります。

医療者が良かれと思って提示した治療方針が、患者にとっては大きな葛藤や負担になることもあります。「この患者にとって本当に大切なことは何か」という視点を持ち、多職種での連携や、間接的かつ丁寧な問いかけを通じて患者や家族の想いに耳を傾けるプロセスが求められます。

次号では、実際の症例を基に、「延命された時間をどう生きたいか」について、SDMを用いてどう治療方針に反映していくのか、具体的にお伝えします。

■お知らせ

厚生労働省主催の「令和7年度院内感染対策講習会」が実施されます。詳細は、厚生労働省ホームページでご確認ください。（講習会の区分により、対象者や申し込み先が異なりますので、ご注意ください。）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_21747.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21747.html)（厚生労働省ホームページ 院内感染対策について）

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights (C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.

○●横浜市医療安全メールマガジン<第226号>●○  
～医療現場で行われる共同意思決定（SDM）の実際と今後のあり方 その2～

医療安全メルマガは、患者と医療機関のコミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！

医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

今号では「延命された時間をどう生きたいか」という問いに対し、共同意思決定（SDM）を用いて治療方針にどのように反映していくかを、医療現場を想定した症例シミュレーションをもとにご紹介します。

■患者の価値観に寄り添う医療の実践

「私は、もう年だから透析なんてしたくない。静かに終わらせてほしい。」

そう語ったのは、腎代替療法の選択を前に、80代の独居高齢女性でした。週3回の通院、毎回の穿刺、体への負担…といったさまざまな不安を感じていたのかもしれませんが。家族は遠方に住み、日常生活もままならない状況。医師が治療の必要性をいくら丁寧に説明しても、患者の心には届かず、拒否の姿勢は変わりませんでした。

「透析しなければ命が危ない」と伝える私たちと、「静かに死にたい」と願う患者。その溝は深く、説明を重ねるほどに、むしろ患者の態度が硬化していく—そんな状況でした。

しかし、ある看護師が静かに問いかけました。

「どんなふうに、これからの日々を過ごしたいと思っていますか？」

その一言で患者は思いを語り始めました「入院はもううんざり。庭の花を見ていたい」「人に迷惑をかけたくない。でも、孤独に死ぬのは怖い」。その言葉の一つひとつに、生活者としての思いが込められていました。

次号では、患者の「これからの日々をどう過ごしたいか」をベースに、医療者がチームでどう意思決定を行っていたのか、具体的にお伝えします。

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights(C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.

○●横浜市医療安全メールマガジン<第227号>●○  
～医療現場で行われる共同意思決定（SDM）の実際と今後のあり方 その3～

---

医療安全メルマガは、患者と医療機関のコミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！  
医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

---

今回は、第226号で患者が伝えてくれた「これからの日々をどう過ごしたいか」という思いを受けて、その声をどのような反映したのかについて説明します。

■患者と医療者がともに築いた意思決定

患者の思いを尊重し向き合うため、医療者側もチームで何度も話し合いました。治療の選択肢、家庭環境、通院の可否、社会資源の利用可能性…時に意見は分かれ、進まない場面も多々ありました。患者本人が本当に理解しているのか、誰が説明をするのか、家族の関与の度合いはどうするのか—SDMを進めようとすればするほど、現場には多くの「悩ましさ」が立ち現れてきます。

それでも、患者の人生観を軸に据えた話し合いを繰り返し行う中で、腹膜透析という選択肢が見えてきました。自宅での治療、自分のペース、訪問看護との連携。少しずつ患者の表情が和らぎ、「やってみようかな」と小さな前向きが生まれました。

カテーテルの手術、機械操作の練習、初めての在宅透析…不安は尽きなかったものの、医療チームと地域の支援が患者を支え、在宅腹膜透析の生活が始まりました。そしてある日、患者がふと語ってくれました。

「医者に“透析しましょう”って決められていたら、たぶんずっと嫌だった。でも、“どんな生き方がしたいか”を一緒に考えてくれたことが、本当にありがたかったの。」

患者の言葉は、私たち医療者にとって、共同意思決定の意義を改めて実感させるものでした。

次号では、現場で行う共同意思決定（SDM）について、まとめをお伝えします。

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights(C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.

○●横浜市医療安全メールマガジン<第228号>●○  
～医療現場で行われる共同意思決定（SDM）の実際と今後のあり方 その4～

---

医療安全メルマガは、患者と医療機関、コミュニケーションギャップを埋めるヒントを発信中！  
医療機関へお役立ち情報やお知らせも発信

---

これまで全4号にわたり、医療現場での共同意思決定（SDM）についてご説明しました。今回は、現場での実践を踏まえ、今後のあり方についてお伝えします。

■まとめ 医療現場で行われる共同意思決定（SDM）の今後のあり方  
共同意思決定（SDM）は、理想だけでは進まないこともあります。時間がかかる、関係職種との連携が必要、患者の思いが言語化されにくい、家族との関係に配慮が必要—そんな現場の“もどかしさ”と向き合いながら、進めていくものです。

しかし、だからこそ、患者と医療者がともに悩み、考え、選び取ったその一つの決断には、計り知れない重みと価値があります。それは「説明と同意」を超えた、「ともに創る医療」の姿なのだと思います。

医療に関わるさまざまな立場の人々が、患者や家族と向き合い、対話を重ねる—そのような関係性の中で育まれる相互コミュニケーションが、より良い医療のかたちをつくっていきます。

■参考ページ

腎臓病の症状について（日本腎臓学会）

<https://jsn.or.jp/general/kidneydisease/symptoms11.php>

■メールマガジンアンケートはこちらから

<https://shinsei.city.yokohama.lg.jp/cu/141003/ea/residents/procedures/apply/3f49df6a-ed3b-4367-8f9d-54a92bba0ed8/start>

■バックナンバーはこちらから

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/iryo/anzenshien/iryoanzen/iryoanzenml.html>

■解除・変更：下記URLから、メールマガジンの解除又は変更手続きができます。

<http://ml.city.yokohama.lg.jp/mailman/listinfo/anzenchan>

■発行：横浜市医療安全支援センター（横浜市医療局健康安全部医療安全課）

Copyrights(C) 2008 City of yokohama. All rights reserved.